



Vol. 13

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」サイト (nantokashinakya.jp/)では、東日本大震災の被災地を支援しているプロジェクトメンバーの活動状況について紹介しています。

PROFILE

1984年笑福亭松鶴に入門。人形を使って笑いを表現する「パペット落語」で一躍人気を博す。90年のニューヨーク公演を皮切りに、バンコク・上海・ロンドン・スコットランド・サンフランシスコ・ハワイなどで活躍。2000～04年までシンガポール、04～08年までロンドンを拠点に活動する。また、06年にNPO法人国境なき芸能団を設立し、社会貢献活動にも積極的に取り組む。「なんとかしなきゃ!プロジェクト」著名人メンバー。

1995年に阪神・淡路大震災が起こった時、しばらく落語界も自粛モードになりました。とは言っても、居ても立ってもいられず救援物資を届けて回ったりしていたのですが、ある日、被災者の方にこう言われたんです。

「あんたは落語家とちゃうんかい。そんなことはいいから、ここにいる皆を笑わせてくれんか」

こんな大変な状況の中で本当にかっこいいのかという迷いはありましたが、急ぎ避難所で落語をすることに。すると、その場がぱっと明るくなったのです。「地震後初めて笑ったよ。私たちががんばらんとあかん」と涙を流して喜んでくれた。笑いで人を幸せにする。私がこの世界を目指した原点に返ったような気がしました。それまでも「自分の芸を海外で試したい」と各国でパフォーマンスをしてきましたが、これを機に、国内外問わずさまざまな状況の下で苦しんでいる人たちに笑わせたいという思いが強くなりました。



その思いが形になったのは、99年のトルコ大地震の被災地で公演した時に会った「国境なき医師団」の方の言葉がきっかけです。「病気やけがは治せても、人を心から笑顔にすることは簡単ではない。でも鶴笑さんなら、“笑い”を通じて心のケアができる」と。それまで途上国とも国際協力とも無縁でしたが、落語家としてできることがあるかもしれないと感じ、2006年に「国境なき芸能団」を設立。それ以来、活動に賛同してくれる芸人仲間を集めて途上国を訪問し、英語や現地語を取り入れた“笑い”を披露しています。

そして昨年12月には、イラクのクルド自治区の避難民キャンプへ。「なんでわざわざそんな危険なところに行くんだ」と周囲は猛反対でしたが、これをあきらめてしまっは「国境なき」と銘打ってやってきたことが全部うそになると説得を重ね、なんとか渡航が実現しました。

現地にはこれまでに感じたことな

ような緊張感があり、最初はキャンプの大人たちも私たちをかなり警戒していました。でも、日本から持ってきた人形で楽しそうに遊んでいる子どもたちの姿を見て、一人二人と、人が集まって来た。最後には舞台にまで人が上がってきて、もみくちゃにされてしまったほど(笑)。民族や宗教など、複雑な問題はたくさんあります。それでも、「この一瞬を皆で楽しもう」という空間を共有することができて、私にとっても、彼らにとってもかけがえのない一日になりました。

笑いは国境を超える一。私が日々実感していることです。これからも、笑いを通じて一人でも多くの人を笑顔にしていきたいです。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトを中心に、さまざまな国際協力のカタチを提案していきます。
詳しくはこちらから→ nantokashinakya.jp